

麻疹風疹混合ワクチン接種後も妊娠前に風疹抗体陰性となる例

北山利江¹, 大阪優¹, 松岡麻理¹, 重田護², 太田志代¹, 勝佳奈子¹, 門上大祐¹
中岡義晴¹, 森本義晴³

¹IVF なんばクリニック ²IVF 大阪クリニック ³HORAC グランフロント大阪クリニック

【背景と目的】

一般的に風疹ワクチンを接種することで 95%以上の人が風疹ウイルスに対する免疫を獲得できるといわれている。ワクチン接種歴からの抗体保有率の調査や接種後短期間での検討を散見する。しかし妊娠希望の不妊症患者での前向きな検討は検索した限りみつからなかった。今回、当院で MR ワクチンを接種した例について第二子希望などで再度風疹抗体の検査を実施した症例について検討した。

【対象と方法】

当院において 2014 年 9 月より 2018 年 12 月まで MR ワクチンを接種した 20 代から 40 代の不妊症女性 865 例について問診票での接種歴、その後の再検値、ワクチン投与からの期間、ワクチンのロット番号を検討した。

【結果】

上記 MR ワクチンを接種した患者 865 例のうち、以前の接種歴についての項目で、接種したと選択した例が 332 例 (38%)、特に風疹ワクチンであったと記載されている例が 172 例 (19%) であった。再検査例は 44 例であり抗体価陰性が 28 例 (再検例のうち 63.6%) だった。ワクチン投与日から再検までの期間は陰性例平均 700 日、陽性例平均 845 日であった。また、陰性例と陽性例のワクチンのロット番号に偏りはなかった。陰性を確認後に再度 MR ワクチン接種した患者が 12 例であった。

【結語】

ワクチン接種後であっても、患者の希望で再検した場合は抗体陰性となる割合が高かった。妊娠を希望する場合は、先天性風疹症候群を予防するために再検査を行い、抗体が陰性であればその予防に努めるべきと考えられた。一般産婦人科と比較して不妊治療施設では妊娠前の女性診療をする機会が多く、妊娠希望直前の風疹ワクチン接種の啓発は生殖医療従事者に責務と考える。